



# 子ども大学学生新聞

創刊号  
子ども大学  
かわごえ新聞部

## 「生きる力って、どんな力？」

### 12・8 平野吉直先生が授業

十二月八日、東京国際大学で、信



州大学教授平野吉直先生の「生きる力を測定しよう」という授業が行なわれました。

参加人数は、四年生三五人、五年生三八人、六年生三二人、合計一〇五人でした。保護者六五人、兄弟四人が参観しました。

授業では、まず初めに、アイスブレイク・ゲーム（心の壁を取り除くゲーム）が行われました。心の壁を取り除く、まあ仲良くできるようにするということです。また、ASEは、心と体のウォーミングアップとも言われています。二人組になって、じゃんけんをして遊んだり、五人組で、ゴムを使って星を作ったり、体を動かしながらアイスブレイク・ゲームを体験することが出来ました。そのつぎは、平野先生が主催する自然体験活動の効果や内容などに

ついて、お話がありました。平野先生は子どもの教育に関する研究もしていて、信州大学では、社会性を育てる体験活動として「北アルプス縦走キャンプ実習」「子どものキャンプ指導実習」などを行っているそうです。

自然体験活動の効果は、生きる力が身につく、大脳が活性化する、自身を持って行動できる力が着く、自然の不思議さや大切さを知ることが出来る、協力や仲間の大切さを学ぶことができる、などがあります。

最後に平野先生が言った言葉「知ること、感じることの半分も重要ではない」ということで、皆さんも「知る」だけで終わらせないで「感じて」みましょう！

今回の授業では、ゲームを交えて、生きる力について学ぶことができたと思います。

（森千賀子記者 浦和別府小6年、齋藤和美記者 大塚小5年）

## 突撃！ 先生インタビュー

### 「植村直己さんを尊敬」

授業をした平野先生（通称ひらめ

先生）にインタビューしました。

Q 先生が子どもに伝えたいことは？

A 私は自然が好きです。だから、たくさん自然にふれあってもらいたい。自然が好きなら子どもが増えてほしい。

Q 子ども大学かわごえの学生の印象は？

A ちゃんと人の話を聞いてくれる学生がたくさんいて、良い印象です。私は子どもを自然の中につれていき、実際にいろいろ体験をさせれば良いと思っています。私は人前に立つて授業をするのは、はじめてで、ちゃんと聞いてくれるかどうか心配だったが、ゲームが楽しかったといってくれただけで、うれしいです。

Q 尊敬する人は誰ですか。

A うーむ。いっぱいいるけど、植村直己さんです。私は植村さんに会ったことがあります。もう亡くなっていますが、あんな登山家をめざしたい

です!

Q 今、行ってみたいところはどこですか?

A ヨーロッパの北の方に行つて、オーロラを見たいな。人間はきれい、美しいと思つて感動することはすごいこと、犬のような動物とは全然ちがう。

(長坂星名記者 高階北小5年)

### 授業の感想を聞きました

#### 「ゲームがおもしろかった」

「心に残ったのはどこですか」

福岡君「野宿や親ばなれすると、生きる力が上がるといったところ」

角野君「生きる力は、いろいろなこと

ことができている」(長坂星名記者 高階北小5年)

浅野玲子さん(杉下小4年)

「一番さいしょにやったゲームがおもしろかった。すごいわかりやすく、きいていて、おもしろかった」

福田ゆりさん(山田小6年)「ゲームがすごくおもしろかった」小



島本審記者 福原小4年

山本雄大さん(寺尾小学校年)「楽しかったところは、ロープで星をつくったところ」

(佐野幹太記者 高階小4年)

澤田綾乃(さわだあやの)さん(山田小6年)「ゲームは楽しかったけど、話はふつうでした」

浅野璃子(あさのあきこ)さん(杉下小4年)「やがいきょういくが、大切だということがわかりました」

堤 友花(つみゆうか)さん(大塚小3年)「今日、平野先生が来て勉強になったことを全部

「じまんしたいです」(土田真由香記者 山田小5年)

### お父さん、お母さんへの感想は?

授業でよかったところを聞きました。

◇石井吉幸さん(会社員)「前に出て、みんなで遊んだところ」

◇梶川牧子サン(幼稚園の先生)「みんなで体を動かして遊んだところ」

(佐野幹太記者 高階小4年)

◇石山さん「授業はわかりやすかった」

◇田澤さん「授業はわかりやすかった。(子どもにも)。写真が見やすかった」(中原大知記者 大塚小6年)

### 新聞部からのお願い

#### 授業中のおしゃべりはやめましょう

■ 授業中のおしゃべりは、先生に失礼になるので、やめましょう。先生が一生懸命お話をしているのに、おしゃべりしていると、先生が、この子たちは聞く気がないんだなと思われてしまいます。そうなるので、その後に授業をしてくださる先生

「たちも、聞く気がないんだな、覚える気がないんだな」と思われてしまいますので、授業中は静かにしましょう。

■ ローラーシューズは危険ですので、はいて来ないでください。

■ せきは、前からつめてすわってください。間をあげずにすわってください。



(イラスト 土田真由香)

#### ◇新聞部の記者研修

##### 取材の仕方を学ぶ

子ども大学かわごえは、学生による新聞を発行することになり、新聞部員を募集したところ、一〇人から手が上がりました。途中で一人やめましたので、九人でスタートしました。

新聞記者をしていた理事の矢倉久泰がコーチ役、子ども大学事務局次長・松本豊さんと、スタッフの小林範子さんがサポート役になり、研修会を「あけぼのホール」で三回開きました。編集長は中原大知君(大塚小6年)。題字は石川朱里さんが作りました。

みんな熱心に新聞づくりに取り組んでいます。読者のみなさんのご支援と、取材へのご協力をおねがいします。(子ども大学かわごえ理事・矢倉久泰)